

愛媛大学医学部附属病院を受診している患者さんへ

研究に対するご協力をお願い

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。この研究は、愛媛大学医学部附属病院の臨床研究倫理審査委員会での審査・承認後、当院で病院長の許可を受けて実施しております。

今回の研究では、患者さんのカルテの記録（血液検査結果やシンチグラフィ検査の画像情報を含む）を使用します。

研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテの情報を利用してほしくない方は、以下のお問い合わせ先までご連絡下さい。ただし、研究結果が出た後など研究の対象から削除できない場合もありますのでご了承ください。

※試料・情報の利用を拒否された場合でも、あなたが不利益を受けることはありません。

研究課題名	甲状腺癌術後放射性ヨード内用療法後における ^{131}I シンチグラフィ上の大腸集積についての後ろ向き研究
研究機関名	愛媛大学医学部附属病院
試料・情報の提供を行う研究機関の長	愛媛大学医学部附属病院 病院長 杉山隆 (試料・情報の提供元の管理責任者)
研究責任者 (個人情報管理者)	放射線科 助教 高田 紀子
研究期間	研究機関の長の許可日 ~ 2027年12月31日
対象となる方	2013年1月~2024年3月に愛媛大学医学部附属病院を受診された方のうち甲状腺癌に対する放射性ヨード内用療法を開始された患者さん
利用する試料・情報等	(利用するカルテ情報) 性別、年齢、身長、体重、現病歴、合併症、既往歴、投薬歴、血液検査データ、画像検査データ、治療状況、入院期間中の看護記録等
研究の概要 (目的・方法)	甲状腺癌の一部の患者さんに対して行われるヨード内用療法では、放射線を出すヨード(放射性ヨード)を含むカプセルの内服を行っています。この放射性ヨードは胃や腸管から吸収されたのちに甲状腺組織や甲状腺がんに取り込まれますが、一部吸収されなかったわずかな薬剤は便から排泄されます。患者さんに便秘がある場合は放射性ヨードの腸管からの排泄が遅れるために、より長い時間を大腸にとどまることが予想され、大腸の放射線被ばく量が増加する可能性が考えられます。大腸内に放射性ヨードがあるかどうかは、残存甲状腺や病変への集積を確認する目的で退院前に撮影されているシンチグラフィ検査を使用し、大腸の集積の有無をみることによって大まかに確認することが可能です。これまで、こ

	<p>のシンチグラフィ上の大腸集積と便秘の関係について調べられた過去のデータはほとんどありません。今回の研究では、便秘の有無やその他のいろいろな因子と、大腸集積の有無との関連性について、過去に行われたシンチグラフィ検査画像を使用して調べることを目的としています。大腸集積の有無に関連する因子を明らかにすることができれば、それに対する対策を講じることで大腸集積を抑え、大腸の放射線被ばくを抑えられる可能性が期待されます。</p>
個人情報の保護 について	<p>この研究で収集される試料・情報等は氏名、住所、生年月日など患者さんを直接特定できる情報を削除して誰のものかわからないようにした上で利用いたします。患者さんを特定するための情報（対応表）は、院内で個人情報管理者が厳重に保管し外部への提供は行いません。</p> <p>また、保管される試料・情報等を新たな研究に利用する場合は、新たな研究として倫理審査委員会に申請し、承認されてから利用いたします。なお、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。</p>
お問い合わせ先	<p>愛媛大学医学部附属病院放射線科 高田 紀子 791-0295 愛媛県東温市志津川 454 Tel: 089-960-5371</p>